

2020年10月7日

厚生労働大臣 田村 憲久 様

## 認知症関係当事者・支援者連絡会議

全国若年認知症家族会・支援者協議会  
男性介護者と支援者の全国ネットワーク  
レビー小体型認知症サポートネットワーク  
公益社団法人 認知症の人と家族の会

# 新型コロナウイルス感染症流行下における 認知症の人と家族への対応・支援に関する緊急要望書

日頃は、認知症関係当事者・支援者連絡会議の活動に、ご理解ご支援をたまわり、心より感謝申し上げます。

さて、現在、新型コロナウイルス感染症の流行が長期化しており、国民すべてが不安を抱えながらの生活を送らざるを得ない中、認知症の人と介護家族は、感染拡大防止策の重要性は理解しつつも、その反動で生じる深刻な問題の対応に、大変困っています。

介護家族からは、「本人に感染させたくない」「高齢者は重症化する」という不安や「自分自身もコロナに感染したくない」という強い思いを持つ一方で、感染拡大防止のために設けられた「面会制限」「外出自粛」「介護サービスの利用制限」等によって、認知症の人の心身の衰えや症状の悪化、介護負担の増大など、切実な問題が悲痛な声とともに届くようになりました。

そこで、コロナ禍がさらに長期化する見通しの中、感染拡大が始まって半年が経過した現時点で、当連絡会議では、認知症の人や介護家族・支援者のかかえる問題・実態・要望を「生の声」として集めるため、去る9月7日から30日にかけて、インターネットを使った緊急アンケートを実施しました。そこからは、「一人で100歳の母の介護をしている。私が感染したらどうすればいいのか」「認知機能が低下していきただけの夫の姿をガラス越しだけの面会に行くのはつらくて悲しくて…」などの切実な声が寄せられています。

以下、取り急ぎ取り組んでいただきたい項目について、早急に改善を図るよう要望いたします。

## 要 望 内 容

1. 認知症の人に対する新型コロナウイルス感染症対策の全国基準の指針をつくってください。
    - ① 認知症の人が感染した場合、入院・治療を確実に受けられること
    - ② 認知症の人が濃厚接触者等になった場合、生活の質を確保するために、柔軟に入所系・訪問系サービスを導入でき、それ以外の場合でも介護サービスを途切れさせないこと
    - ③ 認知症の人が自分で感染防止策(マスクの着用やフィジカルディスタンスをとること)ができない場合でも、周囲の人はその状況を理解して、自らが感染防止につとめ、認知症の人を責めたり、批判的にならないこと
    - ④ 以上がスタンダードになり、介護家族が感染者になった場合でも、安心を確保すること
  
  2. 介護家族等が希望すればPCR検査を受けることができ、感染防止対策を十分にとったうえで、病院や施設での面会やこれまで利用していた介護サービスが再開できるよう支援してください。
    - ① 希望する家族等が定期的にPCR検査等を受け、認知症の人との大切な時間を十分に過ごすことができるよう、病院や施設における面会の許容範囲を広げること
    - ② 面会の改善にかかる施設側の人的、場所的負担を考慮して、支援すること
    - ③ 既に通知されている面会環境の整備やオンライン面会の推奨は、これをさらに推進し、施設設備の整備を支援すること
    - ④ 遠距離介護者等が介護のために訪問した地域で、安心して受け入れてもらえる環境を整備すること
    - ⑤ 感染流行地域等への移動を除き、感染者との接触の可能性が高くない場合等、感染リスクの条件を明確にし、介護サービスが一定期間受けられない状況を改善すること
    - ⑥ 認知症の人や介護家族が、孤立せずに、社会的交流が継続できるように取り組む活動を支援し、感染対策の条件にかかわる全国的指針を示し、その会場として使用する公共施設等の使用制限を、最小限に留めること
  
  3. 要介護者の通所系・入所系サービスにおける介護報酬上の特例措置による利用者負担の上乗せは、ただちに撤廃してください。
    - ① サービス提供の継続や感染防止対策にかかる施設側の負担は理解できても、十分な説明もなく、利用者の同意・不同意によって、同じサービスを利用している場合でも負担額が異なる不公平なしくみは、撤廃すること
    - ② 一部の先進的な自治体が、特例措置の利用者負担を補填する施策を導入していることについて、国はそれらの動きを真摯に受け止め、問題の解決を自治体頼みにしないこと
- 以上